

第93話 故緒方惟孝君略伝(続きと訂正)

薬学雑誌 1905 年度(明治 38 年)4 月号

第 91 話で緒方惟孝のことを書いたが、とんでもない間違いをした。彼には子がなかったと書いてしまったが、そうではない。タシ夫人との間に一男二女を授かった。長男は早世したが、長女初枝(養女)には大國六治が養子に入った。六治はドクトルで米国留学後緒方病院の歯科長となる。次女敏子には山本鷺雄が養子に入った。彼も医学博士でドイツ留学のあと岡山医専教授を経て緒方病院の内科医長となった。直系となった惟準の家が有名であるが、惟孝の家も発展している。関係者はじめ読者にご迷惑をおかけした。お詫びする。

六治、鷺雄をはじめ優れた医師たち、多数の緒方一族が集結した緒方病院はどこにあったのだろうか？

6 月に大阪に行く機会があった。数十年ぶりの道修町、平野町は新しいビルが増えたせいもあり、夏の日差しが真上から来ると東西南北が分からなくなった。神農さん・少彦名神社、くすり博物館を見たあと、ちょうど惟孝のことを書いたところだったので、北に数分のところにある適塾と緒方ビルも訪ねた。緒方ビルは、明治 35 年緒方正清が独立、開業した緒方婦人科病院の後身、くりにつくおがたの他に、医院が 9 つ、薬局が 1 つ入ったクリニックセンターとなっている。

3 階に除痘館記念資料室があった。すなわちこのビルは、洪庵が同志とともに種痘を西日本に広めるときの拠点となった除痘館の跡地に建つ。

惟準、惟孝ら一族が集まって明治 20 年に設立した緒方病院は、この緒方ビルの場所(今橋 3 丁目)ではなく、もっと西の今橋 4 丁目だったらしい。明治 26 年、西区立売堀南通 4 丁目に分院を造り、こちらを拡張し今橋本院を廃止した。その後大いに発展したが、昭和 4 年、諸般の事情から病院は閉鎖された。

多くの優れた医療関係者を輩出した緒方家の明治・大正期の人物を調べるには「緒方系譜考」(1926 年)がよい。発行人は惟準の後継ぎ、銚次郎。著者は銚次郎の三男、富雄だが、彼はこの年(大正 15 年)東大医学部在学中で、緒方洪庵伝を執筆中だった。のち血清学の大家となる。本書は洪庵以前の緒方家、佐伯家の話から始まるのだが、他書にない多数の人々のことが書いてあり、国会図書館の HP から画像として全文が読める。

小林 力

